

eitoeiko より古屋郁展のご案内です

I' m Here for Sightseeing

古屋郁

2022.10.8-10.29

日頃より皆様にはお世話になっております。eitoeiko では 10/8 より 10/29 まで、古屋郁個展「I' m Here for Sightseeing」を開催いたします。留学時に遭遇した事物の撮影記録。異邦人となった自身が観察者の目を通じて捉えた心に残る光景は、現地に住む人々からすれば日常に潜むワンシーンだったかもしれませんが。おそらくはそうであったはずのものが、コロナや戦禍により、そこにあった暮らしの営みそのものが、いまはどこかへ行ってしまったかもしれないと思いながら、作家は小さな感動を呼び起こしたものを掘り起こし、作品に生まれ変わらせていきました。入国審査時のありふれた回答をタイトルにした本展では、旅先の写真と記憶を元に、出会った色彩や形象を抽出した絵画と銅版画を中心に数十点展示いたします。この機会にぜひご高覧ください。

世界って変わるんだと、この 1、2 年の間に知りました。2017 年にリトアニアの美術大学に少し在籍して EU を旅行してる間、私は常にただの観光客で、気楽に外から眺めて不思議とか、かわいいとか、凄いとかの視覚的な感動で写真を撮って、iPhone のアルバムが増えていだけでした。だから、ニュースを見てもリアリティを持って理解してしていない気がする。とても無責任だけど、あの不思議でかわいくて凄い生き物や景色が消えないで欲しくて絵に描きました。

古屋郁

1991 年東京生まれ。2016 年武蔵野美術大学大学院版画コース修了。2016～17 年リトアニアのヴィリニュス芸術アカデミーに学ぶ。リトアニアを基点にディック・ブルーナに代表される幼児向け絵本や、北欧デザインと総称されるブックデザイン、テキスタイル、インテリア、建築を実地に見て回り、シンプルで素朴な意匠のある生活を体験したことは作品の方向性に影響を与えています。一方で神職の家系に育ち、日本古来のアニミズムを理解することで、西欧とは異なる宗教観と、ものの姿に対する平等な捉え方の指針となっています。ロゴマークやキャラクターデザインなども手掛け、現在 Bunca コラム連載中。

主な展覧会

TRANSITIONS (中国版画美術館 深圳 2015) / セントニコラスプリントビエンナーレ (SteM Zwijgershoek 2017) / SHIBUYA AWARDS (Bunkamura wall gallery 天野タケル賞) / AOMORI トリエンナーレ (2018)、SICF19 (SPIRAL) / Salon des Beaux-Arts (Carrousel du Louvre) / おばけフクロウの森 (個展 eitoeiko 2019) / ゆらゆら まにまに きらきら (個展 bonon 京都、eitoeiko 2021) / トミノ見えざる手 (eitoeiko) など。

eitoeiko

東京都新宿区矢来町 32-2

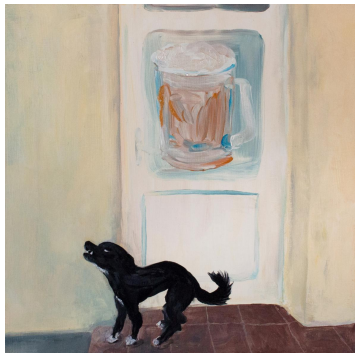
03-6873-3830

www.eitoeiko.com

開廊 12 時より 19 時 日月休廊

お問い合わせ ei@eitoeiko.com

作品介绍



酒場と野良犬 リトアニア 2022



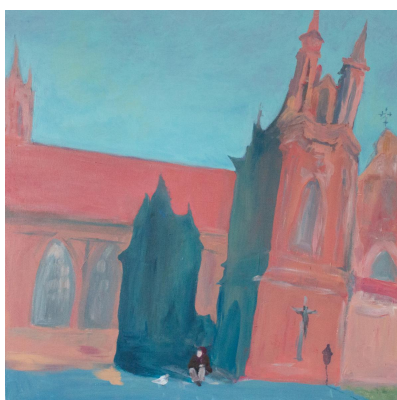
三角形の家 アイスランド 2021



白鳥 チェコ 2021



Copenhagen デンマーク 2021



聖アンナ教会 リトアニア 2022



カジュカス祭 リトアニア 2022